

令和5年7月28日

令和4年度 学校関係者評価報告書

学校法人後藤学園
専門学校武蔵野ファッションカレッジ
学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園専門学校武蔵野ファッションカレッジ「学校関係者評価委員会」は、令和4年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り 報告致します。

学校関係者評価委員（「専門学校武蔵野ファッションカレッジ学校評価要綱」による選出）

- ・ 学校の専門分野における業界関係者（同第5条第2項第1号）
田中 大資 氏 株式会社クレヨン 代表取締役
- ・ 卒業生（同第5条第2項第2号）
古本 舞 氏 萬リンク株式会社 代表
- ・ 高等学校校長、進路指導担当者等（同第5条第2項第3号）
窪田 春花 氏 川崎市立川崎高等学校
- ・ 学校の専門分野における業界関係者（同第5条第2項第1号）
石木 賢二 氏 株式会社 Vowel ディレクター／デザイナー

令和5年7月28日

令和4年度自己点検・自己評価報告書

専門学校武蔵野ファッションカレッジ

基準1 教育理念・目的・育成人材像等	
【現状と課題】	<p>本校の教育目標は『優れた人格と実践力をもった人材を生み出すこと』と定めており、実践力の定義としては『ファッションの専門性と社会人基礎力が融合したもの』としている。</p> <p>昨年度より新体制となり、「その先の未来を創る一心から楽しもう、全てやりきろう」を学校スローガンに掲げ、教員一同邁進、武蔵野ファッションカレッジらしさを確立する一步を踏み出すこととした。</p> <p>様々な対応を求められ、低迷した数年であった。時代に則した職業教育の実現のために業界・企業と連携し、実践的教育の質向上を目指す。カリキュラムの検討も必要事項と捉えている。</p> <p>別紙：資料2 R.5年度 組織と配置</p>
【改善のための方策】	<p>ファッション業界と整合性をもった人材育成としていくため、業界・企業との連携を積極的に活用していく。</p> <p>令和4年度より、カリキュラム会議を開催。他校のカリキュラムを分析・検討し、武蔵野の特色を生かした授業構成を目指す。</p> <p>令和6年度より、シラバスフォーマットとガイドラインをリニューアルする。</p>
【関係者評価】	<p>学生それぞれの人間力を高める教育を。人間力としての最優先、具体的には挨拶や表情など根底にあるもので、社会人といえども大前提の基本と言える部分である。「ひとりひとり」をキーワードに達成感を感じられるように。場面場面で評価を伝えることも肝要であるだろう。褒められることから、評価を貰えることを理解し、そのことが原動力・活力にも繋がる。時代性ではなく、周りの環境が大事。重要な場面で感謝や謝辞を伝えられるように。</p> <p>カリキュラムも時代とともに見直しが必要である。武蔵野らしさは維持し、バージョンアップをはかれるように期待する。</p>

基準2 学校運営	
【現状と課題】	<p>ファッション校では進路ガイダンスへの講師派遣は、教員が対応している。SNSや広告・印刷媒体の作成、出張授業や学校見学の対応など学生募集に関する業務、教務事務も教員が担う。運営体制は余裕のある状況ではないが、協力し合える組織としての基盤は構築できた。各担当業務のルーティーン化が進むことでさらなる効率化と、改善が図れるはずである。他分野併設校があることは後藤学園の強みである。学園他部署や併設校との連携を図り、活性化をしていくことで、学園全体の活路を見出したい。</p>
【改善のための方策】	<p>多岐に渡る業務のスケジュールリング・フォーマットの確立とスムーズな情報共有に努める。職員間の業務の連携に留まらず、学内期間限定ショップの開店、ワークショップの開催、体育祭での施設共有など、学生も教員も交流する機会を増やしている。</p>
【関係者評価】	<p>他校では事務方が担う教務事務や就職相談、募集活動も教員。負担は大きいですが、全学生の状況を理解できていることは有益である。業務が多岐に渡っているが、枠組み作りの最中にあると捉えられ、瞬発力の高い組織・チームワークはできつつあると感じられる。</p> <p>他分野の併設校があることは後藤学園の強み。</p> <p>ファッション学校の中だけに留まらず、学内、学外ともに外に出て交流を持つことで視野も広がり、分野や職種が違った多視点に繋がる。併設校共同で始動している教学プロジェクトでのワークショップは良い試みで徐々に幅も広がるであろう。ノベルティ制作の提供とイベント時のランチ提供など、協力体制が学園内でできることは心強くコスト面でも期待でき、活路となるのは他分野で構成された学園であることである。学校運営の活性化にファッション学校が起爆剤となり、リードしていけるように期待する。</p>

基準3 教育活動	
<p>【現状と課題】</p>	<p>ファッション業界の様々な職種で活躍する方々を招いて、それぞれのキャリアをもとにご講演いただいた。職業教育の充実をはかるために、今後も様々な連携授業を試みていきたい。</p> <p>期間限定ショップは、武蔵野が長年取り組んできた実践的な教育のステージであり、社会人基礎力育成の場である。新任の教員を迎えた昨年からは、より良い運営を目指して大きく見直しをはかった。</p> <p>Incubate collection、総合学園祭ではそれぞれ委員会を立ち上げ、より学生主体の運営を推進している。</p> <p>今年度より、CGにビジネスPCの基礎を組み込んだ。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>各学科の教育課程編成委員会において、定期的な意見交換を行うことで業界・企業の求める人材像と、本校の育成する人材像が乖離しないように努めていく。学生と信頼関係を築くことで個々が身につけたい知識・技術を把握し、それぞれに合った指導と達成感を感じられる授業を目指す。研修への参加や作品制作など、教員も成長できる機会を設ける。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>体育祭の経費については郊外実習費として教材費から出ている。預かり金であるので余剰分は返金を行っていることは誠実な対応である。</p> <p>コロナ禍で大きな行事ができなかった高校時代を過ごした世代で、今までできなかった大きなイベントに対しての気持ちは大きいはず。中学・高校時代にイベントを経験することは個々の成長に大いに関わる。体育祭や学園祭は実行委員会として学生が運営することは望ましい。</p> <p>PCは一人一台使ってきているはず。OfficeよりGoogleを使っている印象。専門学校の授業の中で網羅することはできないので高校までの状況を鑑みて、対応としては。</p> <p>高度なものを単独でやる時はoffice、共有して同時に作業するときにはGoogleとシチュエーションによって使い分けている。違いや使い分けも教えられるのでは。</p>

基準4 学修成果	
【現状と課題】	<p>就職希望者に対する就職率目標 100% → 結果 74.2%。</p> <p>以前より、学生それぞれに合わせた就職指導は行なっていた。業界で働いてきた新任教員を迎え、より幅広いアドバイスにつながっているが就職率は伸び悩んだ。踏み出せない学生に就職活動を始めさせるというのが課題である。未決定者の支援は卒業後も継続して行なっている。</p>
【改善のための方策】	<p>担任による、個人面談を定期的に行なっている。</p> <p>本校の学生は堅実で真面目な気質である。近年は工場での勤務を望む学生が増えてきた印象である。就職先の開拓と授業の一環として、工場見学を行なっている。</p> <p>業界で活躍している人を週替わりで講師として迎え、今までのキャリアや魅力を語ってもらい、様々な職種への興味を広げる。</p>
【関係者評価】	<p>会社によって差異はあるが、採用の枠は増えてきている。販売職はずっと募集を継続。対面の接客をやっと心置きなくできるようになった。</p> <p>就職活動が出遅れる原因として、職種が決まっていないことが挙げられるのではないかと。入学して早期のうちに、職種を学ぶ（知る）機会を設けてはどうか。体験入学の相談の時から留意して、職種の周知ができるのでは。職種の人物像など日常的な場面に置き換えて話すなど、伝え方に工夫する。</p> <p>縫製職を望む学生が増えてきたが、「工場」というとまだまだに暗いイメージがまだあるのではないかと。「工場」の現場はかなり進化していて古いイメージと現在は大きく異なることを学生に伝え、働く場を確保してみたい。</p>

基準5 学生支援	
【現状と課題】	<p>退学率目標 4%以内</p> <p>わずかに減少はしたが目標には及ばなかった。様々な問題を抱えている学生が入学している。担任だけに負担がかからないように共通認識を持ち、組織的な対応に努めた。</p> <p>学費未納による退学を防ぐため、奨学金利用者への適切な利用指導を行う。</p>
【改善のための方策】	<p>1年生担任は、オリエンテーション期間に全保護者に電話を掛けるなど、保護者の信頼を得て協力体制を築くとともに、全教員が学生とコミュニケーションをとるよう心掛けている。個々の学生の技量により幅を持たせた指導を目指す。</p> <p>退学する場合でも方向を見定めてあげる配慮は怠らないようにしている。</p>
【関係者評価】	<p>退学も退職も0%になることは理想だが難しい。</p> <p>理由は経済面での困難と精神的なもの、人間関係の悩みが多い。SNSで多くのもが見えすぎていて、学生も保護者も悩んでいるところに、手厚い対応をしている印象で多大な苦勞であろう。保護者も学生も学校に期待するものは大きい。体験入学の個別相談の際に方向性の擦り合わせになるといい。高校では保護者様対象で授業のオープン日を設けている。取り入れてみることも一案。</p>

基準 6 教育環境	
【現状と課題】	<p>安心・安全な教育環境の整備を目指す。校舎の老朽化による破損箇所が多く出ているが、担当部署がスピーディーに対応し環境整備に努めている。老朽化により根本的な解決にならない箇所も出ている。</p> <p>動作が鈍かったCG用パソコンと職員室の各教員PCをリニューアル。安定的な授業運営と事務処理等の負担軽減になった。</p> <p>大画面のモニターを2台導入。</p>
【改善のための方策】	<p>地道ではあるが、少しずつ環境は整ってきている。アップデートなど適切に管理をして、最大限の運用をしていく。</p>
【関係者評価】	<p>プロジェクターに加え、モニターを導入し見やすくなっている。学校の収入は学生なので少しずつ環境のアップデートを計っている。その他、壁の塗替えなどの案が出ている。壁の塗装は協賛がとれる。ビニ板・作業台は全教室に配備できるように助成金を受けるなど検討をしてみてもは。</p>

基準7 学生の募集と受け入れ	
【現状と課題】	<p>入学者数目標を立て、教員と広報部が連携し、募集に力を入れている。ガイダンス等の募集活動に教員が行くことで直接、カリキュラムや学校の様子を伝えている。更に高校生に直接指導をする出張授業も積極的に行っている。SNSを利用し、学校の様子を伝えることにも注力している。定員数到達には至らず、引き続き募集活動に力を入れていく必要がある。</p>
【改善のための方策】	<p>SNS発信、フライヤーなどデザイン・発信タイミングなど、効果の上がる広報活動を継続していく。在校生の楽しそうな様子に注目度が高く感じられる。学生がのびのびと楽しく学べる学校であること。</p>
【関係者評価】	<p>学生がのびのびといられる環境であることはSNSやオープンキャンパスなどを通して伝えられていると感じる。その効果が入学者にも、キャンパスサポートスタッフ増員にもつながったのは、前向きな姿勢が伺える。</p> <p>ファッションに興味を持たせるため、高校や中学へのアプローチの必要性を感じる。</p>

基準8 財務	
<p>【現状と課題】</p>	<p>原資である入学者確保への業務は遂行されている。昨年からの物品価格の上昇にともない、教材費の改定を行った。令和6年度はわずかに学費を上げる。画材や接着芯など一括で仕入れて小分けで販売するなど、学生の経済的負担をわずかでも減らす努力は行なっている。</p> <p>経費削減に職員室全体で取り組んでいる。切り詰めた分で、教育に必要な機器の導入などに充てることができた。</p> <p>別紙：資料3 R.4年度 学費・教材費比較調査 別紙：資料4 R.4年度 カリキュラム比較調査</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>効果的な広報活動は随時より良く改善をしていく。教材費の精査は毎年行なっていく。適切な予算申請と予算執行を行う。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>学費の値上げをしない努力はとても重要であるが、校舎の美化・設備投資も必要であると考えられる。カリキュラムについても内容の適合性は検討する必要がある。</p>

基準9 法令等の遵守	
【現状と課題】	法令の遵守に関しては特に課題はないが、昨年度からの新体制にともない、教務事務において引き継ぎが不十分な部分があった。急遽の対応でなんとか凌いできたが、各担当と連動・分担し、円滑な教務事務の体制を整える。会議の開催タイミングや情報開示の時期など、年間の流れを把握し、遅滞のない更新とする。
【改善のための方策】	学校の基本情報のデータなど、多岐に渡る情報を、担当ごとに入力するフォーマットを作成する。
【関係者評価】	前向きに学校運営を行っていることが感じられる。

基準10 社会貢献	
<p>【現状と課題】</p>	<p>昨年度末に学園としてSDGs 委員会が設置され、併設各校、それぞれの取り組みを報告した。</p> <p>武蔵野ファッションカレッジでは、</p> <p>「3つのR」の理解と実践を推進していく。</p> <p>リデュース (Reduce : 削減)</p> <p>リユース (Reuse : 再使用)</p> <p>リサイクル (Recycle : 再資源化)</p> <p>別紙:資料5 ファッション学校のSDGs取り組みについて</p> <p>近隣の商業施設からコラボレーションイベントの話が持ち上がっている。地域貢献と学生作品を多くの人に見てもらえる良い機会と捉え、受けるつもりである。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>SDGs・社会貢献意識は一過性としなない継続した問題意識を持たせる必要がある。日頃から理解を促し、貢献しやすい環境を作る。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>アパレルでも製品廃棄はなし、残反は出さずに使い切る。ごく細かい残布以外の残反は、ノベルティーなどの小物などに使用することで、物を使い切ることが重要と考える。SDGsの形も年々変わってきているのでそこに敏感になっていくことが大切だと感じている。単純に破棄・廃棄・リデュースといったことがSDGsとされていたことが、ここ何年かでだいぶ変わってきているので、どこまで追えるかが大切な事である。</p>

以上

